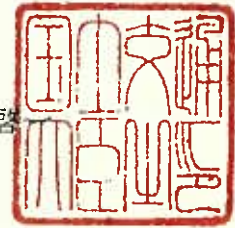


# 認定書

国住指第 2425 号  
平成 29 年 11 月 2 日

株式会社北洲  
代表取締役社長 村上 ひろみ 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PC030BE-0915-1
2. 認定をした構造方法等の名称  
人造鉱物繊維断熱材充てん／仕上げ塗装樹脂モルタル塗・ロックウール保温板・構造用合板表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名：

人造鉱物繊維断熱材充てん／仕上げ塗装樹脂モルタル塗・ロックウール保温板・構造用合板表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁

## 2. 仕様の寸法：

仕様の寸法を表1に示す。

表1 仕様の寸法

項 目	仕 様
壁の高さ	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
壁の厚さ	真壁の場合 205.3mm 以上 大壁の場合 217.8mm 以上
柱、間柱間隔	500mm 以下

3. 仕様の主構成材料：

仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 仕様の主構成材料

項目	仕様
柱 (荷重支持部材)	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は構造用集成材 断面寸法：105×105mm以上 欠き込む場合 欠き込み深さ：10mm以下 欠き込み幅：13mm以下
間柱	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は構造用集成材 断面寸法：真壁の場合 36×50mm以上 大壁の場合 36×105mm以上
外装材	材料：仕上げ塗装樹脂モルタル塗；①及び② ①仕上げ塗材 組成(質量%)： 白色セメント 11.1(±1.1) 水酸カルシウム 12.2(±1.2) 塩化ビニルエチレン・塩化ビニルポリマー・シリケート増粘剤 2.2(±0.2) 石英砂 11.7(±1.2) 方解石 43.0(±4.3) カルシウム炭酸マグネシウム 13.2(±1.3) 二次元性結晶・パーライト 5.9(±0.6) 撥水剤・増膜剤 0.7(±0.1) 塗厚：4mm以上 密度：1.3(±0.1)g/cm <sup>3</sup> 以上 ②仕上げ塗装剤 配合(質量%)： スティローアクリル結合剤 13.5(±1.4) アルキルシリコーン樹脂 11.3(±1.1) クリストバライト 31.9(±3.2) チタン二酸化物 22.0(±2.2) 増粘剤・界面活性剤・解膠剤・消泡剤 2.9(±0.3) 水 18.4(±1.8) 塗厚：0.3mm以下
下張材	材料：ガラス繊維メッシュ入り樹脂モルタル；①及び② ①樹脂モルタル 組成(質量%)： 白色セメント 18.7(±1.8) 水酸カルシウム 14.1(±1.4) 塩化ビニルエチレン・塩化ビニルポリマー・シリケート増粘剤 2.0(±0.2) 石英砂 48.5(±4.8) 石灰石 15.6(±1.5) 撥水剤・増膜剤 1.1(±0.1) 塗厚：3.4mm以上 密度：1.0(±0.1)g/cm <sup>3</sup> 以上 ②ガラス繊維メッシュ 厚さ：0.6mm以上 網目寸法：8.7×6.4mm以下 質量：160g/m <sup>2</sup> 以上

つづく

つづき

外張断熱材	<p>材料：ロックウール保温板  種類：①又は②  ①ロックウール保温板(JIS A 9504)  ②ロックウール保温板  組成(質量%)：  二酸化けい素 58.4(±5.9)  酸化アルミニウム 1.9(±0.2)  酸化鉄 8.4(±0.9)  酸化カルシウム 19.8(±2.0)  酸化マグネシウム 6.2(±0.7)  酸化ナトリウム 4.5(±0.5)  酸化チタン、酸化カリウム 0.8(±0.1)  厚さ：80mm以上  密度：75kg/m<sup>3</sup>以上</p>
構造用面材	<p>材料：構造用合板(日本農林規格に適合するもの)  厚さ：9mm以上</p>
充てん断熱材	<p>材料：建築用断熱材(JIS A 9521)  種類：①又は②  ①グラスウール  厚さ：50mm以上  密度：16kg/m<sup>3</sup>以上  ②ロックウール  厚さ：50mm以上  密度：20kg/m<sup>3</sup>以上</p>
内装材	<p>材料：①又は②  ①せっこうボード(JIS A 6901)  ②強化せっこうボード(JIS A 6901)  厚さ：12.5mm以上</p>

4. 仕様の副構成材料：

仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 仕様の副構成材料

項目	仕様
受材	真壁の場合 材料：①又は② ①日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は下地用製材 寸法：36×50mm以上(柱脇部、柱を欠き込まない場合) ②なし(柱を欠き込む場合)
防湿気密フィルム	材料：①～④の一 ①住宅用プラスチック系防湿フィルム(JIS A 6930) 材質：ポリエチレン ②包装用ポリエチレンフィルム(JIS Z 1702) ③農業用ポリエチレンフィルム(JIS K 6781) ④なし 単位面積質量：100g/m <sup>2</sup> 以下 厚さ：0.2mm以下
ころび止め	材料：平成13年国土交通省告示第1540号に適合する壁の枠材 断面寸法：36×50mm以上
内装材用目地処理材	材料：せっこうボード用目地処理材(兼用ジョイントコンパウンド、JIS A 6914) 塗布量：100g/m以上
留付材	構造用面材固定用： 材料：①又は② ①鉄丸くぎ(JIS A 5508) 寸法：N50以上 ②タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：胴部径φ3.0×長さ28mm以上 留付間隔：周辺部150mm以下、中央部200mm以下  内装材固定用： 材料：①又は② ①せっこうボード用くぎ(JIS A 5508) 寸法：GN40以上 ②タッピンねじ 材質：1)又は2) 1)冷間圧造用炭素鋼(JIS G 3507-2) 2)冷間圧造用ステンレス鋼線(JIS G 4315) 寸法：胴部径φ2.5×長さ25mm以上 留付間隔：周辺部150mm以下、中央部200mm以下  防湿気密フィルム固定用： 材料：①又は② ①工業用ステーブル(JIS A 5556) 材質：1)又は2) 1)ステンレス鋼線(JIS G 4309) 2)鉄線(JIS G 3532) 寸法：内幅9.6mm以上、足の長さ10mm以上 ②くぎ(JIS A 5508) 寸法：N19以上 留付間隔：300mm以下

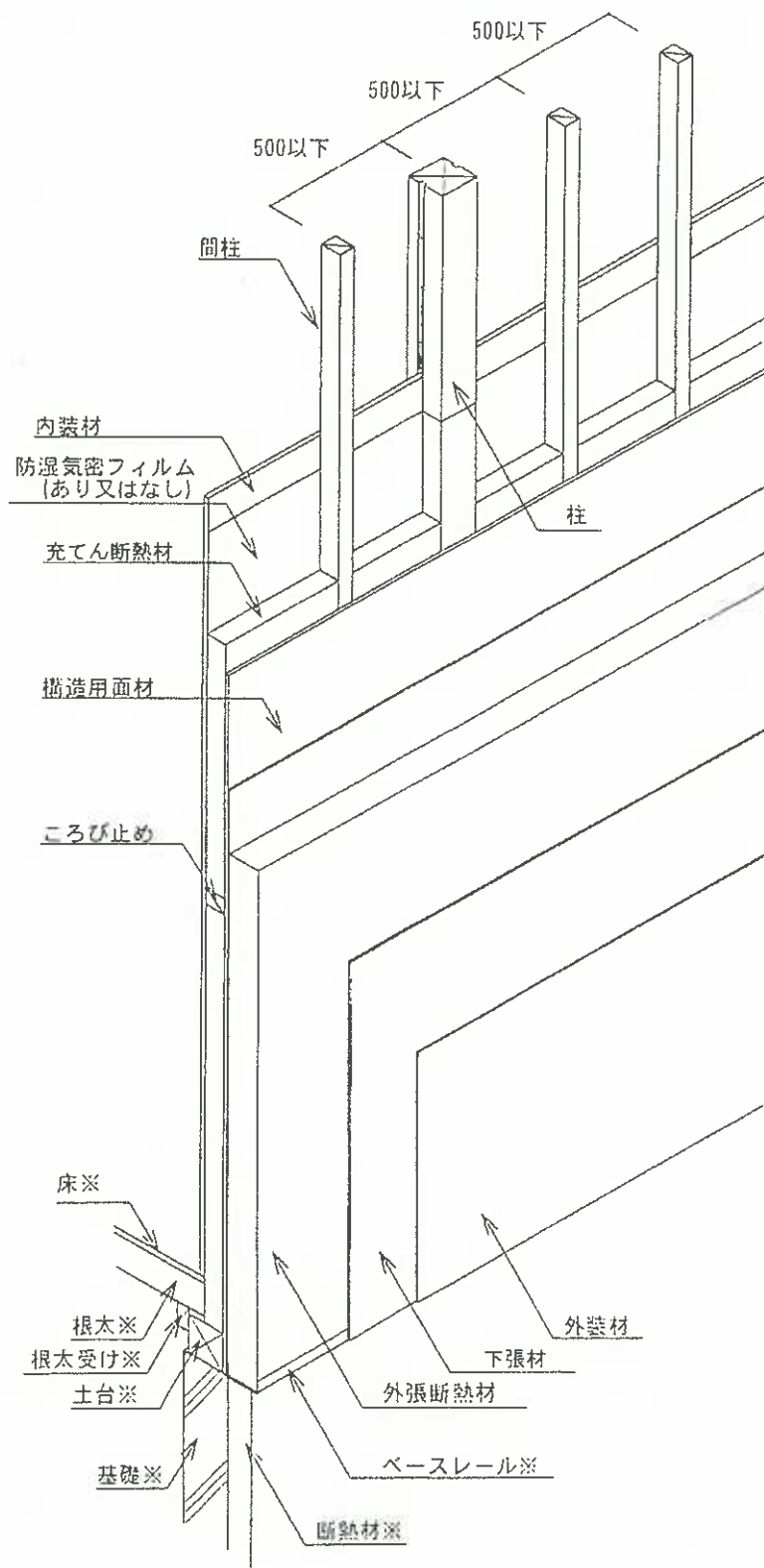
つづく

つづき

接着剤	断熱材固定用： 調合(質量%)： 炭酸カルシウム 66.8(±3.4) セルロース繊維 0.2(±0.1) スティーロアクリル結合剤 20.0(±2.0) 水 10.0(±1.0) セルロース・白雲母・界面活性剤・解膠剤・膜構成剤 3.0(±0.3) 塗厚：3mm 以上
-----	--

5. 仕様の構造説明図：

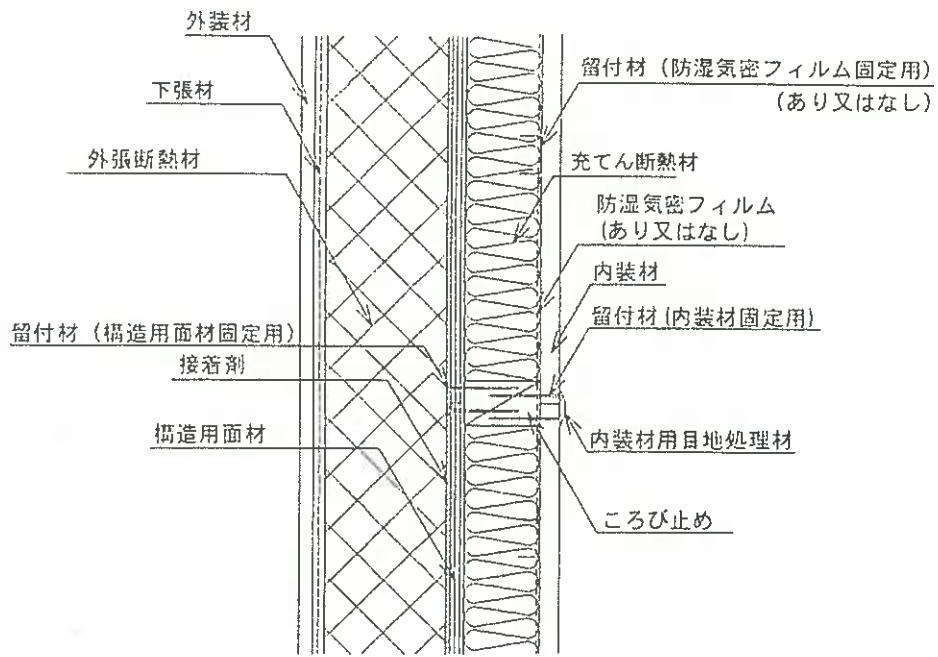
構造説明図を図1～図6に示す。



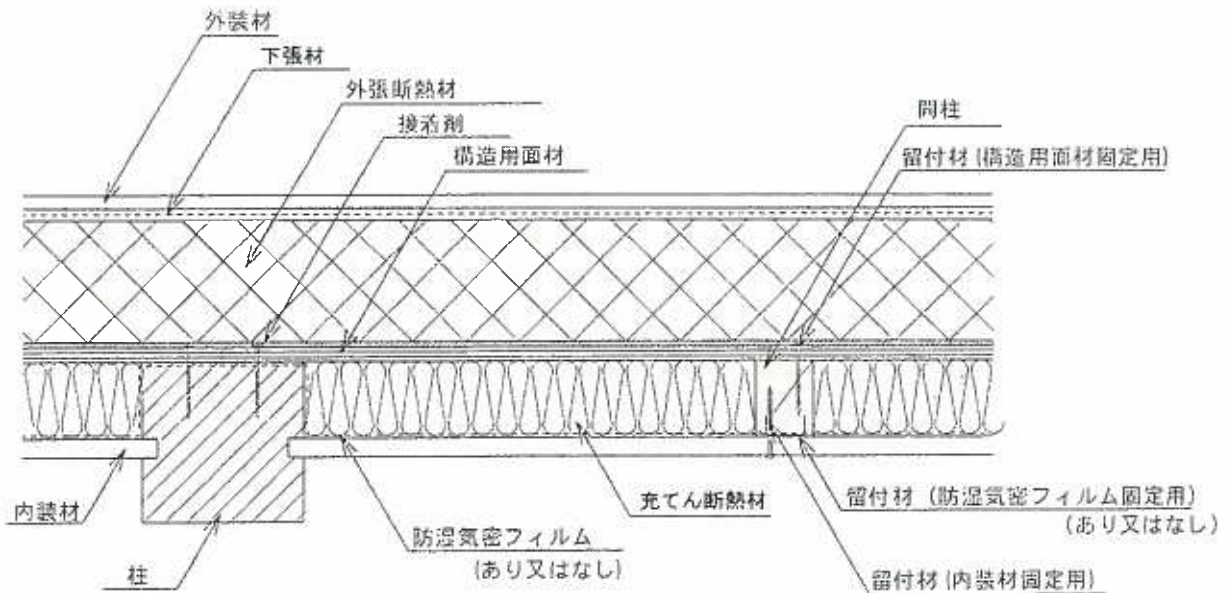
※評価対象外

透視図 (真壁 (柱欠き込み) 仕様)

図1 構造説明図



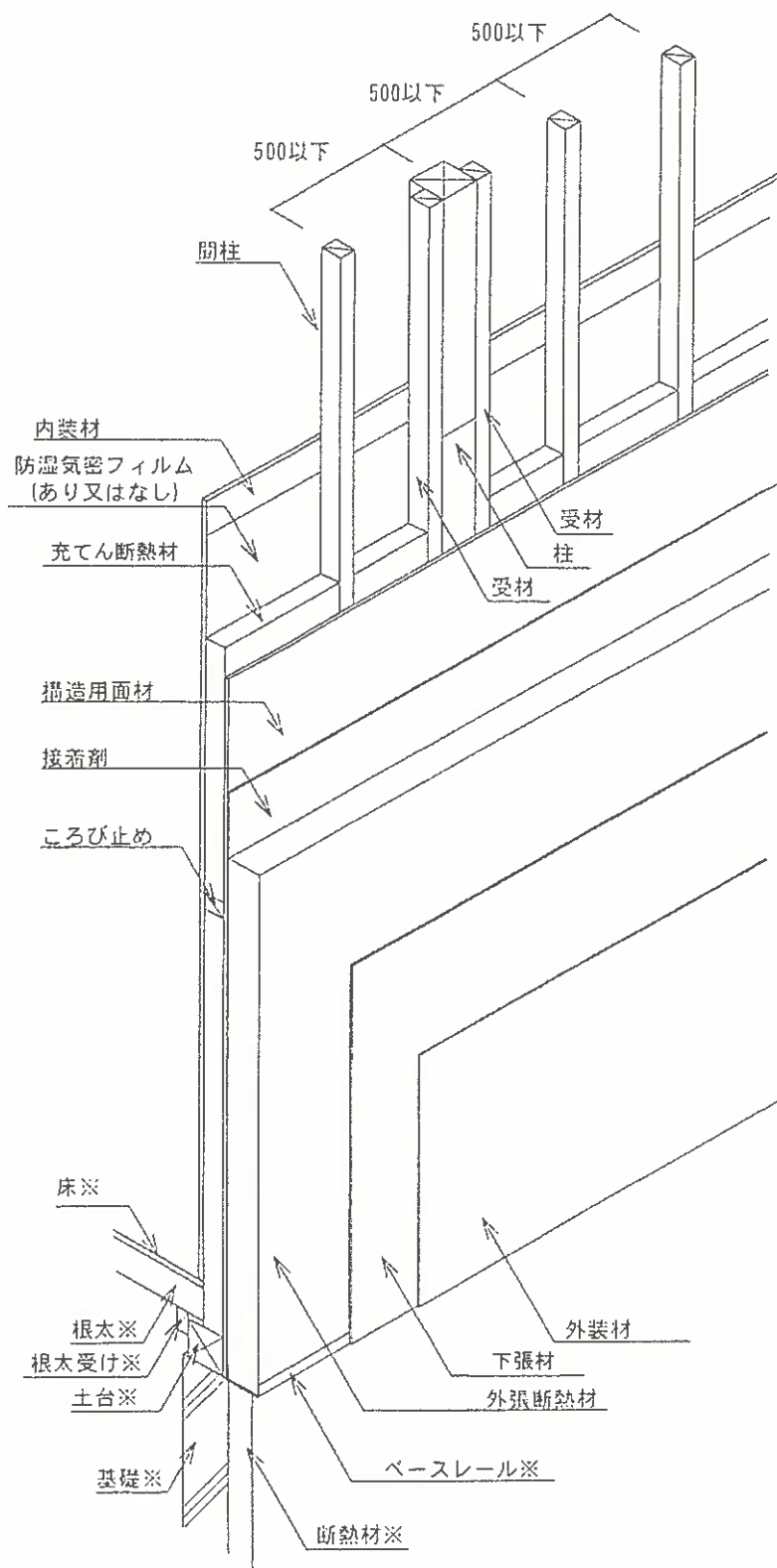
鉛直断面詳細図



水平断面詳細図

図2 構造説明図(真壁(柱欠き込み)仕様)

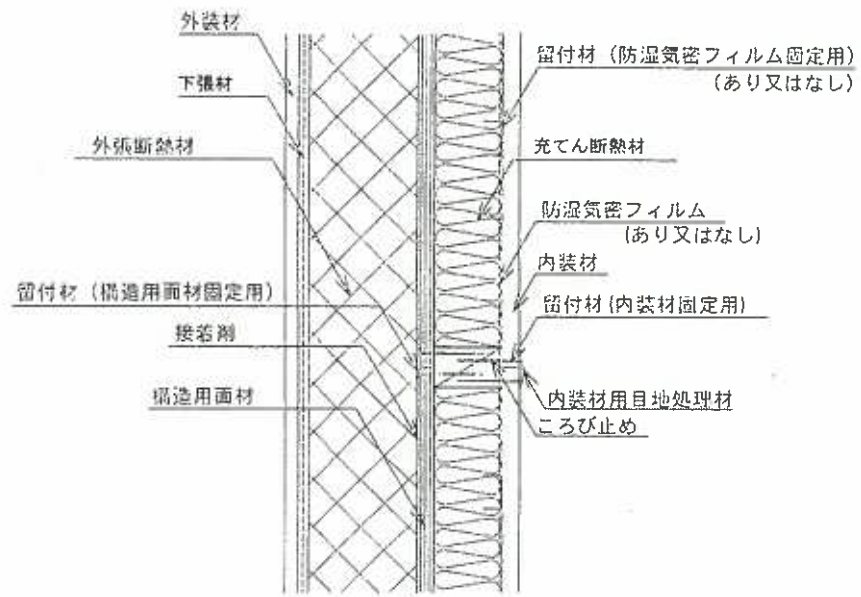




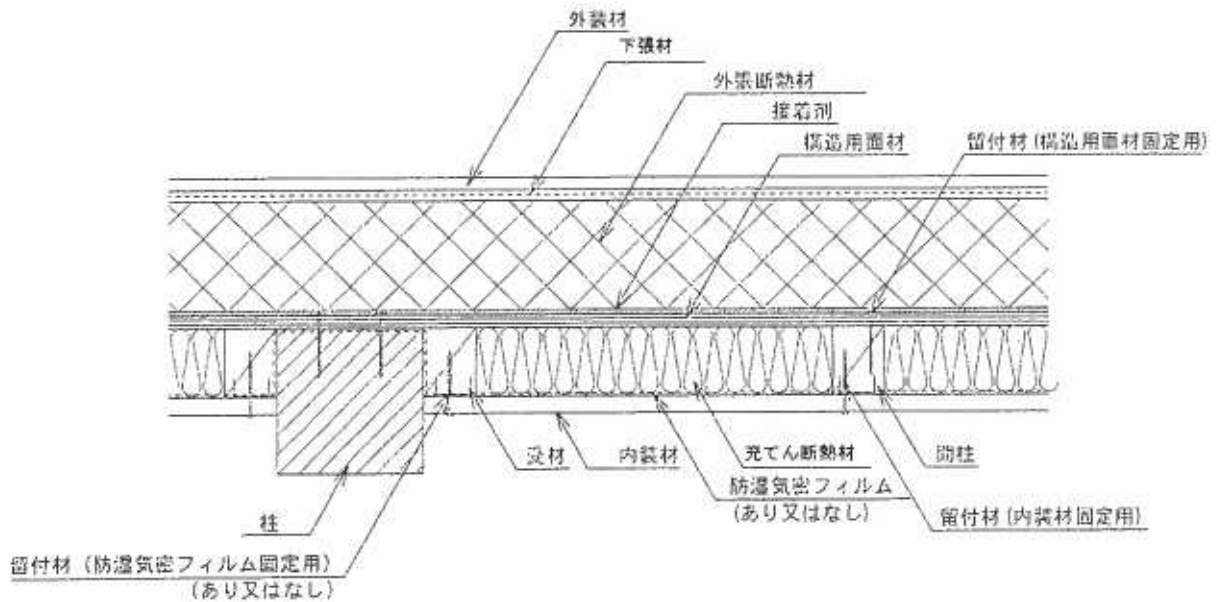
※評価対象外

透視図 (真壁(受材)仕様)

図3 構造説明図

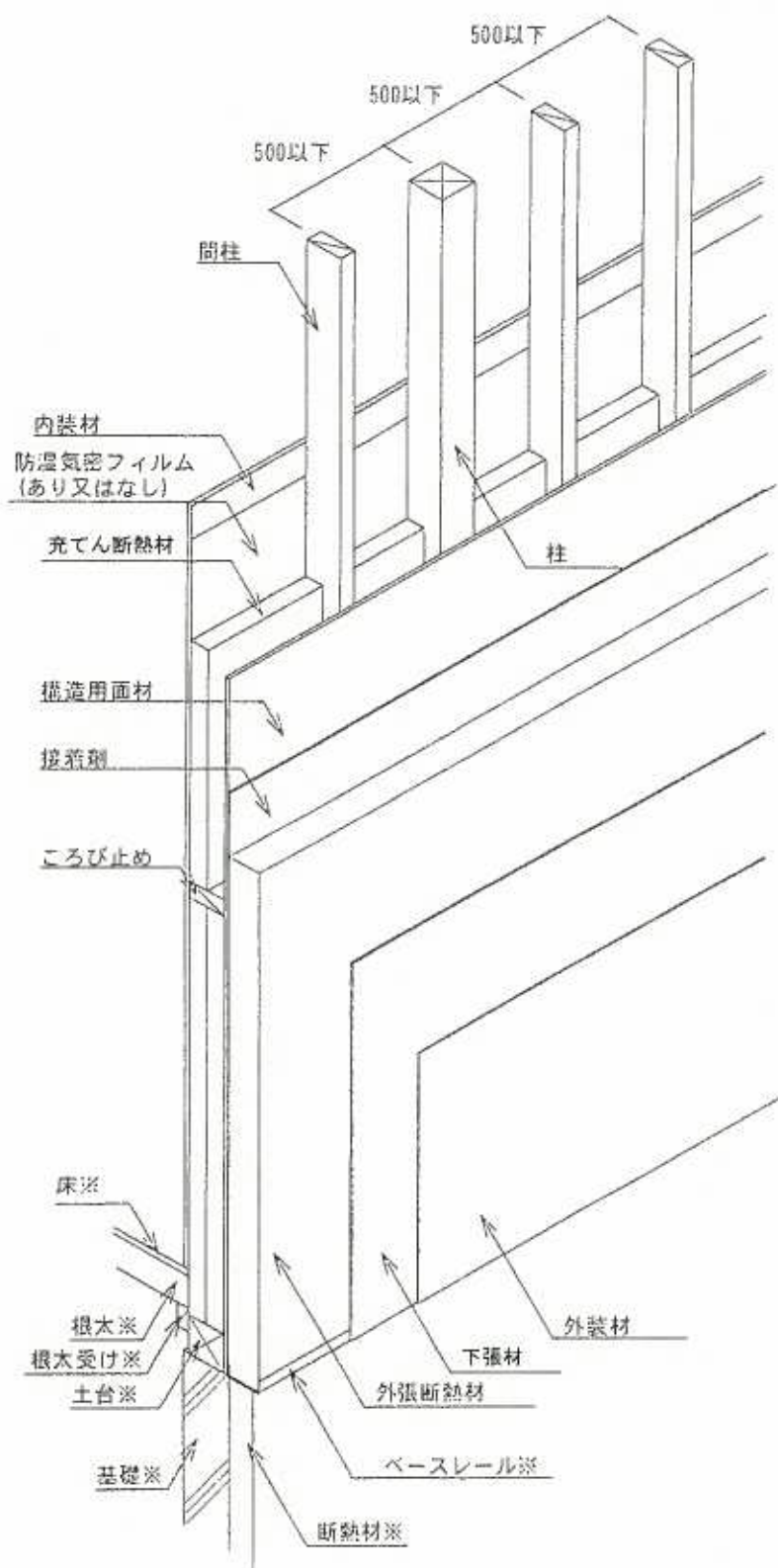


鉛直断面詳細図



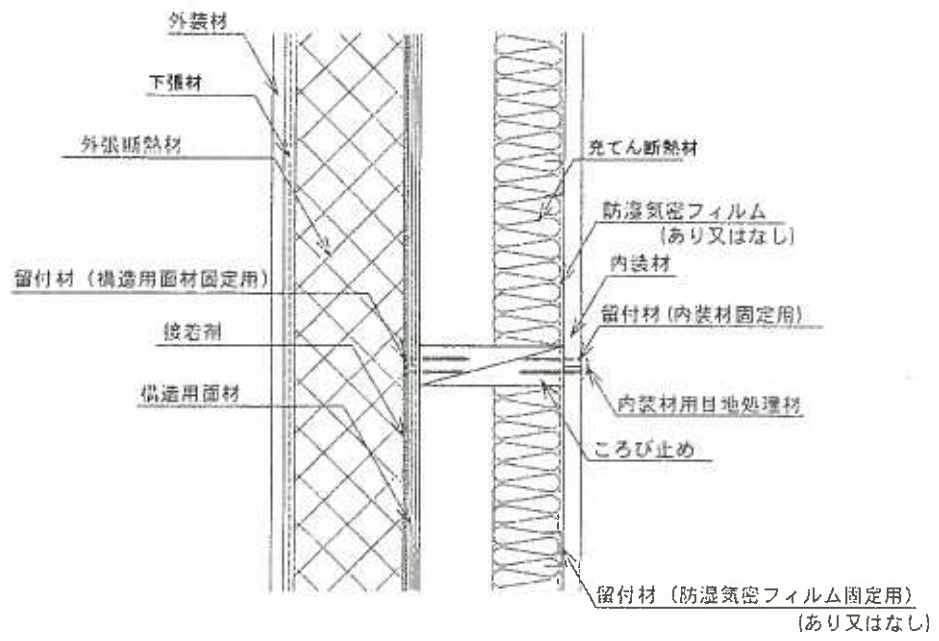
水平断面詳細図

図4 構造説明図(真壁(受材)仕様)

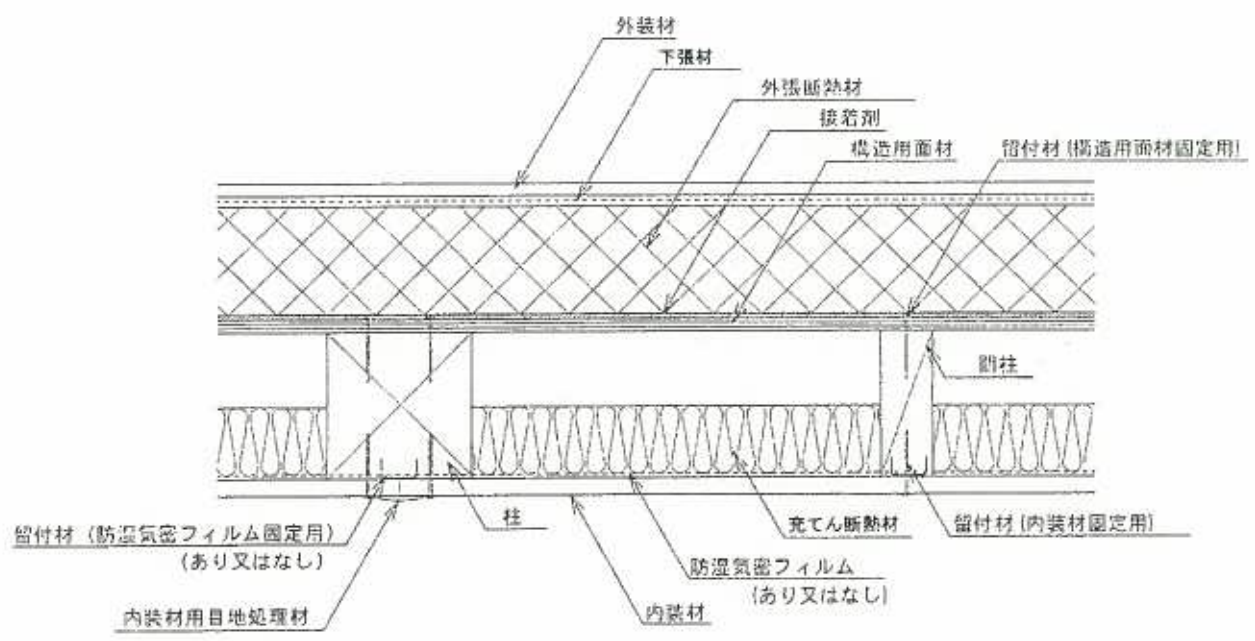


透視図（大壁仕様）

図5 構造説明図



鉛直断面詳細図



水平断面詳細図

図6 構造説明図(大壁仕様)

## 6. 施工条件：

施工図を図7～図9に示す。

施工は以下の手順で行う。

### (1) 下地の組立

柱及び間柱は反り曲がりのないものを使用し、土台の上部に垂直に500mm以下の間隔で取付ける。

### (2) 構造用面材の取付け

構造用面材は、柱及び間柱の表面に、構造用面材固定用留付材を用いて取付ける。又、横目地を設ける場合はころび止めを設ける。

### (3) 外張断熱材の取付け

外張断熱材は、構造用面材の表面に、断熱材固定用接着剤を用いて取付け、接着剤が固まるまで養生する。(24時間以上)

### (4) 下張材の施工

- ・接着剤の養生後、樹脂モルタルを塗り込む。
- ・樹脂モルタルの上からガラス繊維メッシュを伏込み、合計の厚さが4mm以上となるように調整する。なお、ガラス繊維メッシュの継ぎ目は、100mm以上重ね合わせ、浮き上がり、たるみのないようにする。

### (5) 外装材の施工

- ・下張材の表面に外装材(仕上げ塗り材)を4mm以上塗付け、24時間以上養生を行う。
- ・養生後、外装材(仕上げ塗装剤)をローラーを用いて0.3mm以下になるよう塗付ける。

### (6) 充てん断熱材の充てん

内装材を取付ける前に、充てん断熱材を柱及び間柱の間に充てんする。

### (7) 防湿気密フィルムの取付け(防湿気密フィルムを用いる場合)

- ・防湿気密フィルムは横張又は縦張とし、重ね代は縦方向、横方向共に90mm以上とする。
- ・取付けはできるだけ、たるみ・しわのないよう、防湿気密フィルム固定用留付材を用いて仮留めする。

### (8) 内装材の取付け

- ・内装材は、内装材固定用留付材を用いて柱及び間柱の表面に取付ける。
- ・真壁造の柱の欠き込み仕様の場合は、柱の欠き込み部に内装材をはめ込む。
- ・目地部には、内装材用目地処理材を施す。

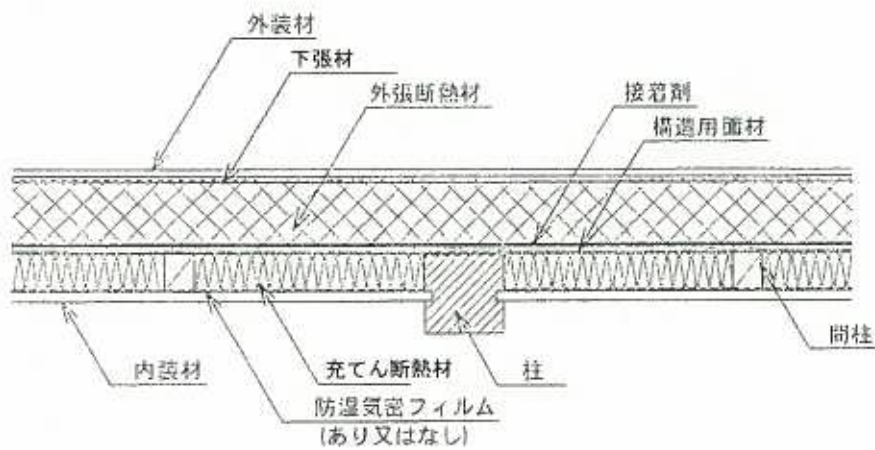
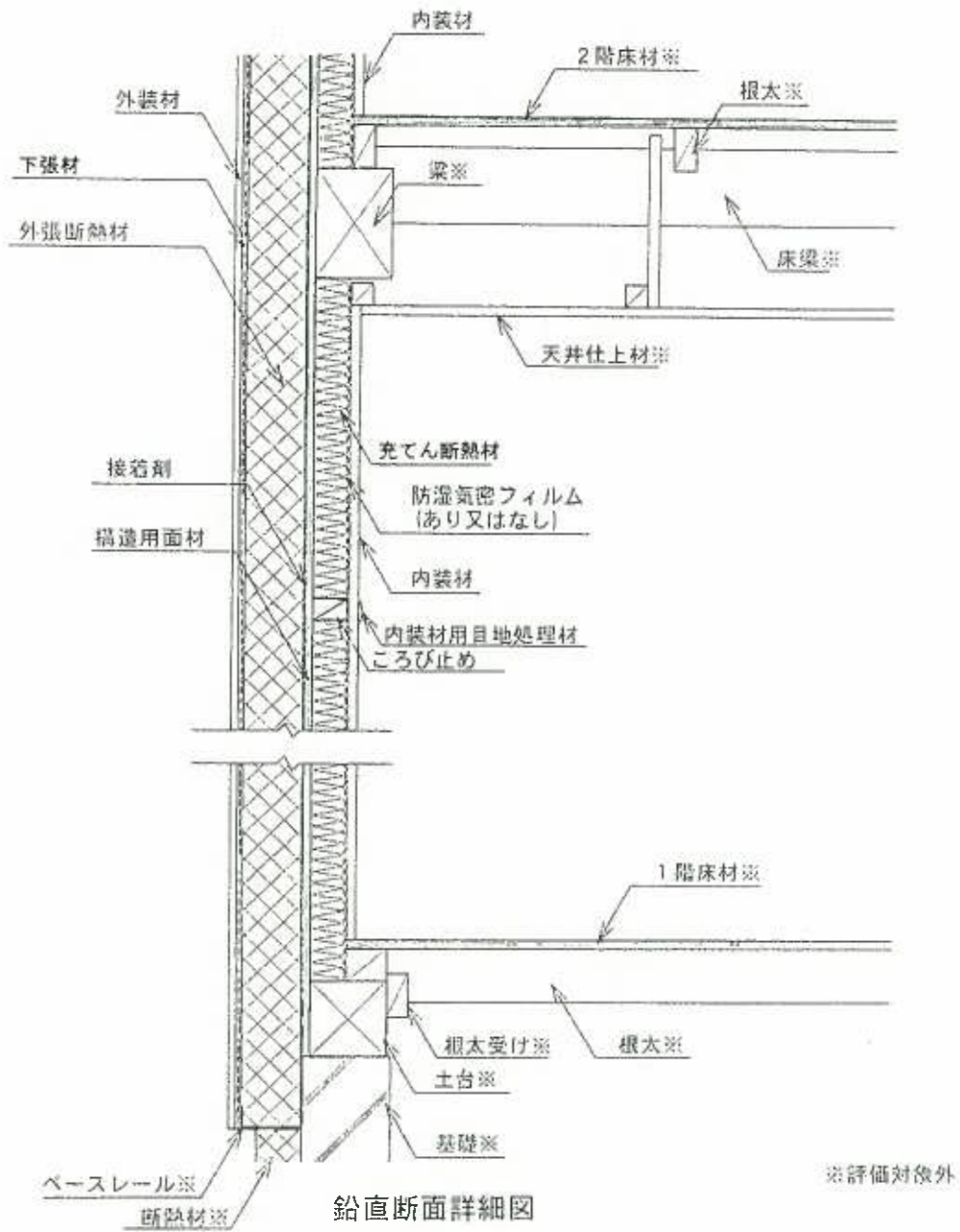


図7 施工図(真壁(柱欠き込み)仕様)

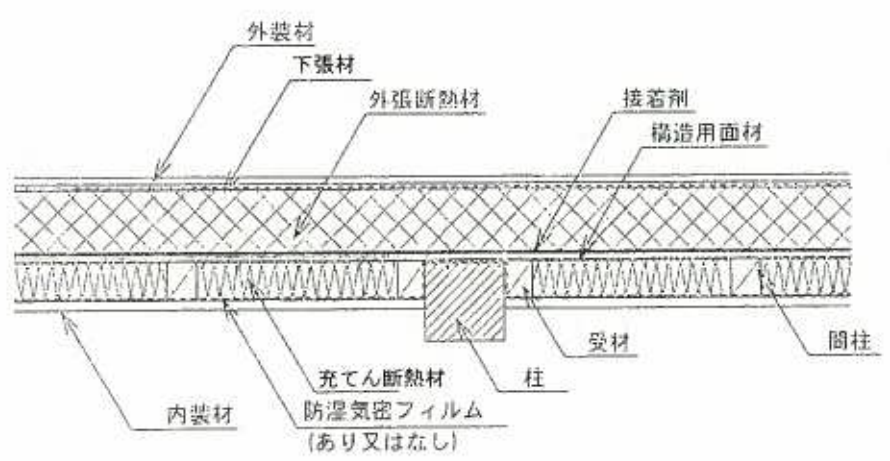
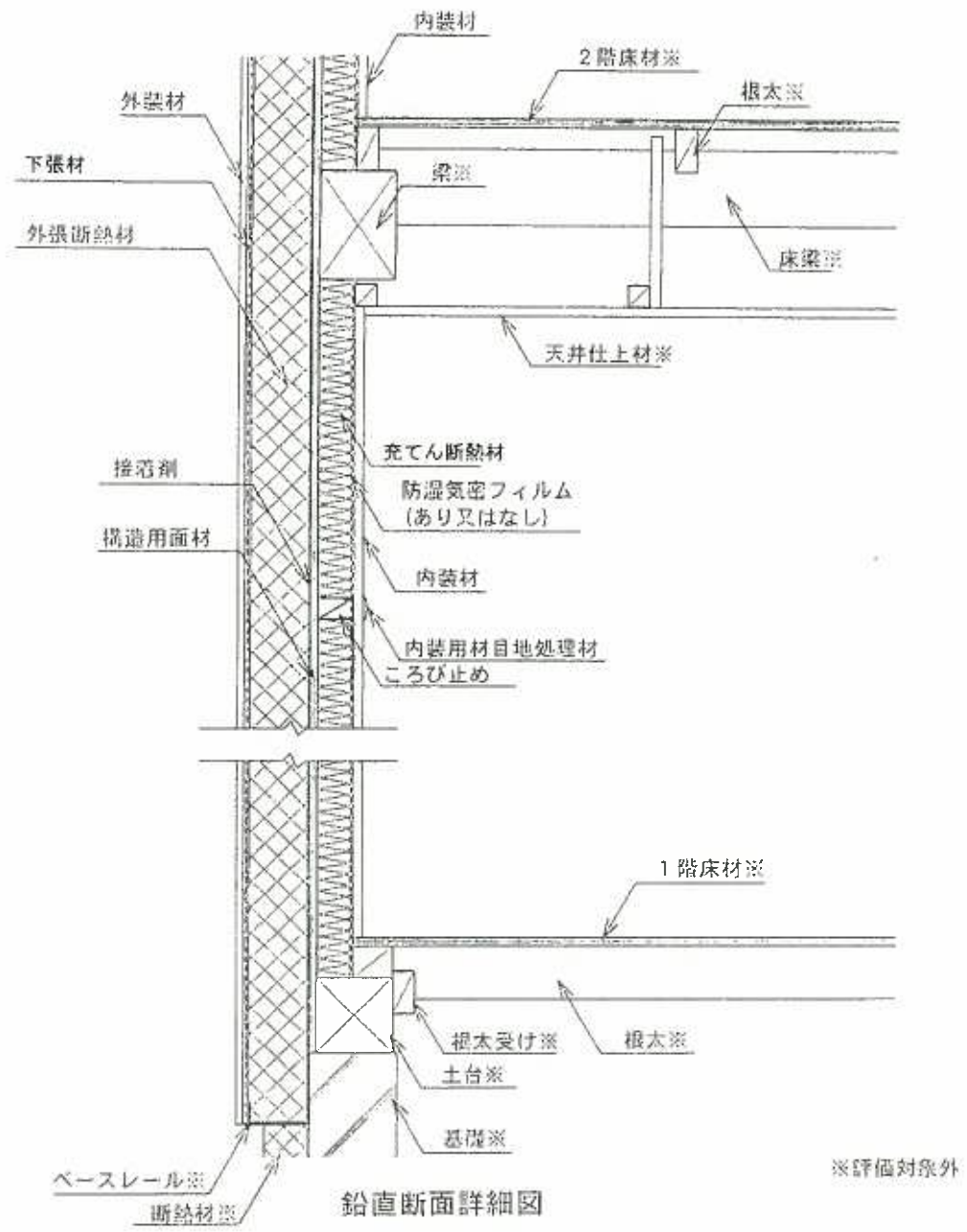


図8 施工図(真壁(受材)仕様)

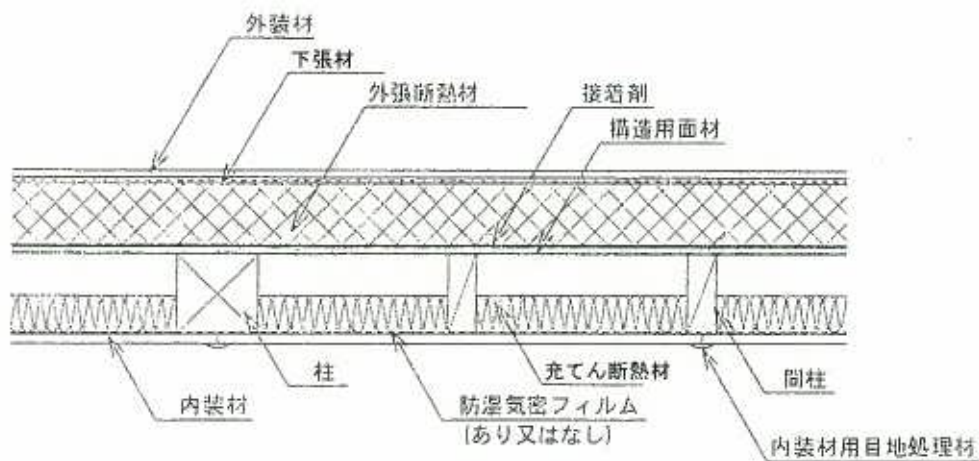
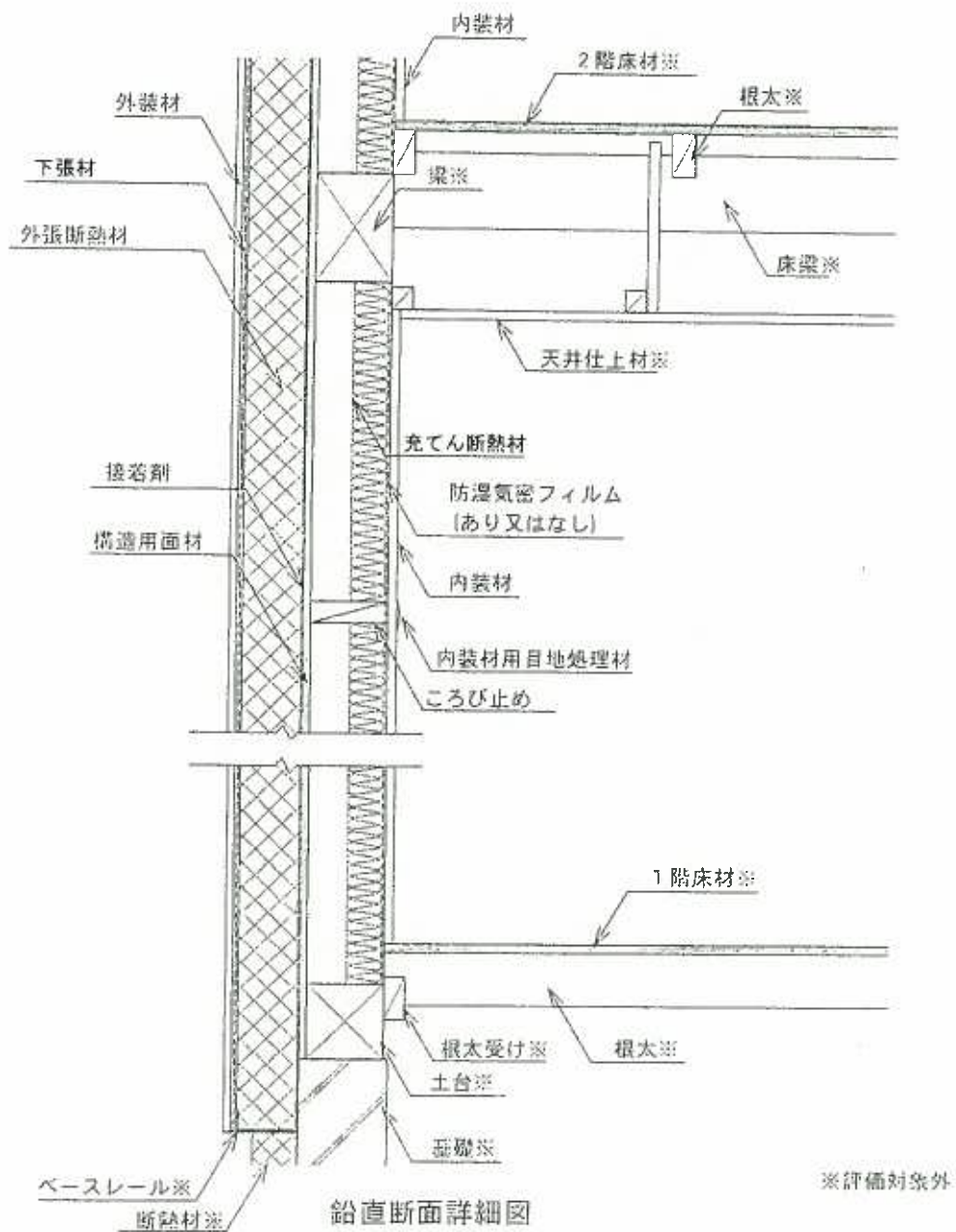


図9 施工図(大壁仕様)